

住まいに関するご相談をお受けしています

相談専用電話：06-6242-1177

■住まいの一般相談（随時／窓口相談・電話相談）

住まいを借りるときや購入する際の質問、分譲マンション管理、および大阪市を中心とした公的な住宅施策などに関する質問に対して、相談員が窓口または電話で対応します。英語、中国語、韓国・朝鮮語にも対応します（外国語対応は17時まで）。

■住まいの専門家相談（予約制／面接相談）（予約は1カ月前からお受けしています）。

お申し込みに際しては、相談員が一般相談で内容をうかがってから予約します。日程が変更になる場合がありますので、ご確認ください。

専門家相談日時	内 容
住まいの法律	概ね毎週土曜日[10時～13時30分] 借家・借地・土地・建物・相続等に関する法律上の相談（弁護士）
住まいの資金計画	隔週土曜日[10時30分～12時] 住宅取得やローン返済、高齢期の住まいと暮らしに関する資金計画等（ファイナンシャルプランナー）
建築・リフォーム	隔週土曜日[10時～13時] 建築設計や施工上の問題・建築関係法令等（建築士）
分譲マンション（法律）	概ね月1回日曜日[13時～16時] 管理組合運営・管理規約等に関する法律上の相談（弁護士）
分譲マンション（管理一般）	概ね週1回木曜日[14時～18時] 管理組合運営・管理規約・長期修繕計画等に関する相談（マンション管理士）

●相談に関する秘密は厳守します。●係争中の案件や営利目的の相談、トラブルのあっせん・仲裁、賃貸住宅の経営に関する相談等、当センターで対応できかねるものは、他の相談機関等の情報を提供します。●専門家相談は、大阪府に在住、在勤または在学の方を対象とします。専門分野ごとに年1回までとさせていただきます（分譲マンション（管理一般）を除く）。

■連携機関による定期相談

大阪府建築士会による建築相談…毎週日曜日 13時～16時（受付は当日の12時30分～15時30分 ※12時30分に相談を受ける順番の抽選があります）。
大阪府宅建協会による不動産無料相談…第1・第3月曜日（祝日・協会指定日を除く） 13時～16時（TEL 06-6943-0621で予約受付）
近畿税理士会による税務相談…毎週土曜日（但し、2・3月を除く） 13時～16時（TEL 06-6242-1177で予約受付）

住まい・大阪に関するセミナーやイベントを開催しています

詳しくは本誌10ページをご参照ください。

大阪市での住まい探いをサポートします

大阪市内の公的住宅のほかUR都市機構の賃貸住宅や大阪府住宅建協会の民間住宅の情報を提供しています。

住まい情報センター（住情報プラザ4F）開館情報

〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 4階

■開館時間 平日・土曜 9時～19時／日曜・祝日 10時～17時

■休館日 火曜日（祝日の場合は翌日）、
祝日の翌日（日曜日、月曜日の場合を除く）、年末年始

7月～9月の休館日	7月1日、8日、15日、22日、29日 8月5日、12日、19日、26日 9月2日、9日、16日、24日、30日
-----------	--

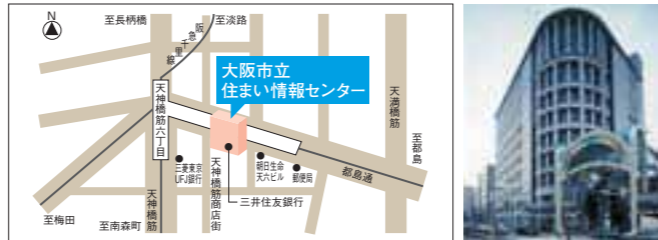
■住まいのライブラリーがあります

「住まい」と「大阪」に関する図書を集めたライブラリーがあります。図書の貸し出しも行っていきます。



■大阪くらしの今昔館があります

詳しくは本誌9ページをご参照ください。
※住まい情報センター（住情報プラザ4F）と開館日時が異なります。



地下鉄谷町線・堺筋線、阪急電鉄「天神橋筋六丁目」駅3号出口

以下、広告です。広告に関する一切の責任は広告主に帰属します。「広告掲載」のお問い合わせは、大阪市立住まい情報センター TEL: 06-6242-1160

■新築住宅設計 ■リフォーム設計 ■オーダーキッチン・家具設計製作 ■住まいの相談

「住まい」についての長年の研究と実践を元に、是非伝えたい願いをまとめた本を紹介（住まいの研究室 室長 井上まるみ）



「こんなはずじゃなかった…」になる前に！家政学士の女性建築家が教える 暮らしを考えたすまいづくり納得のツボ
これらの本(学芸出版社)を手にして頂いた方には、無料相談(1回)を受けさせていただきます

明るく風が通り
暮らしやすく・手抜きしてもきれいに
住め・忙しい主婦を助け・メンテナンスもしやすく・などはもちろん、完成した時も嬉しく、10年20年経っても嬉しい、そんな「住まいづくり」を考えています

- これから住まいを考えようとしているが どうすればいいのか…
- このプランのままに進めていいのだろうか…
- どこに(誰に)相談するといいいのか…
- このキッチンでいいかしら… などなど何なりとご相談下さい

建築家は住宅を「作品」と呼び
住宅メーカーは「商品」と
不動産業者は「物件」と…
それを求めるのもいいでしょう…
しかしそうかな？…が住まいの研究室です

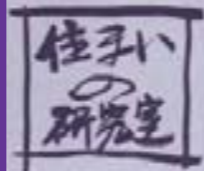


住まいの研究室では、生活提案を体験できるような空間を作っています。(この写真は事務所のキッチンです)

住居学・建築学・デザイン学・家族関係学・栄養学・育児学より
住まいキッチンを考える

TEL/FAX 06-6375-9071

HP:<http://maruminoie.jp>
〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11朝日プラザ梅田1511



特集 **高齢期の住まいと暮らしを描く**



“あんじゅ”は、「安心して快適な住生活をいとなむ」ための情報誌です。
また、フランス語でAngeは「天使」という意味。よりよい暮らしを運んでくれる幸せの象徴をイメージしています。

volume
59

2014年 夏号



住ままち大阪Style
くいだおれのまちが育んだ
「コナモンやきやき」文化

住まいの基礎知識
4回連載「シニアライフを予習する」
第1回 元気なうちに何をしておく？

大阪くらしの今昔news
「浪漫図案」
華麗で活力あふれる、明治・大正・昭和の商業デザイン

大阪くらしの今昔館
新発見「よと川の図」を楽しむ

大阪市住まいのガイド
借りる・買う・建てる・建て替える
各種住宅施策のご案内

〈今月の表紙〉
千日前界隈
コナモンの店が軒を連ねる道頓堀から南へ下ると千日前。なんばグラント花月などがある市民の娯楽の場には、また、たこ焼き屋やお好み焼き屋に人が集まり、ミナミのにぎわいを象徴する界隈はコナモンのまちにもなっています。

あんじゅは、春・夏・秋・冬に発行します。次号は平成26年10月1日発行です。

あんじゅ 2014年夏号 平成26年7月1日発行 ■発行・編集 大阪市立住まい情報センター指定管理者 大阪市住宅供給公社・アクティオ・京都科学共同事業体(代表者 大阪市住宅供給公社 06-6242-1160 〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20)

特集 高齢期の住まいと暮らしを描く



高齢になった時にどんな暮らしをしているか、今はとても想像できない…と若い人は思うかもしれません。現役でバリバリ働いていても10年以内に定年が見通せる年齢になってきたり、親が50代から60代前半の円熟期にさしかかったら、そろそろ将来の住まいや暮らしを描いてみましょう。

大阪市は4人に1人が65歳以上の人口構成に

まず、大阪市の高齢者の現状を見てみます。大阪市の人口は、平成26年4月1日現在268万258人で、ここ数年増えてきています。65歳以上人口の総人口に占める割合は、平成22年国勢調査時点では22.7%でしたが、最新の調査では24.2%まで高まっています(平成25年10月1日現在)。つまり大阪市では、ほぼ4人に1人が高齢者という人口構成になっています。

現在、65歳以上の人口は64万3232人で、予備軍とも言える60～64歳が18万5652人、55～59歳が14万2073人と続きますから、この先も大阪で暮らす高齢者人口は現状並みに推移すると思われます。このような人口構成の街に住む者にとって、高齢者の住まいや暮らしをどう考えるかは実に身近なテーマだとわかります。

一人世帯が半数近く世帯に対する価値観の変化

少子高齢化や晩婚化が進むにつれ、世帯の規模や暮らしのあり方が変わってきました。平成22年の国勢調査では、大阪で暮らす単身世帯(一人暮らし世帯)は62万2010世帯、一般世帯に占める割合は47.5%でした(図1)。半数近くが一人で暮らしており、「世帯」の規模は一人暮らしや夫婦二人世帯など小型化しています。

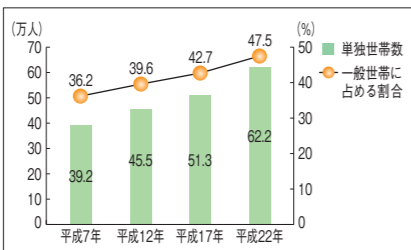
同調査によると、大阪市内で最も人口増加率が大きかったエリアは中央区(17.8%増)で、西区(14.4%増)、浪速区(14.0%増)、福島区(10.4%増)、北区(10.0%増)と続きます。中心部での増加が目立つ背景には、中心部で高層集合住宅が分譲されたり、スーパーマーケットの出店が増えたり、住みやすい環境が整い、都心居住が改めて注目されてきたからでしょう。

より快適な住環境を求めて、住まいを見直すシニア層もいます。子どもが独立すると、子育て期に住んでいた郊外から、利便性が高い都心へ住み替えたり、現在の住まいを老後に備えてリフォームするなど、一定の年齢に達したのを機に、暮らしを合理的に見直す人も少なくありません。愛車を手放してレンタカーやカーシェアリングを取り入れたり、庭の手入れに手間のかかる一戸建てからコンパクトなマンションに住み替えたりすることも同様です。

子ども世帯と同居はしないけれど「近居」する、血縁の家族とは

なく気のあった友人・知人と“隣居”するといったように最近では、近隣住民とコミュニケーションをとりやすい集合住宅、現役時代の仕事や趣味が生かせるサービス付き高齢者住宅なども登場し、

図1 大阪市の単身世帯数、一般世帯に占める単身世帯の割合の推移(平成22年国勢調査より)



世帯に対する価値観が少しずつ変わってきています。

リクルートホールディングスは、住まい領域における平成26年のトレンドキーワードを「縁居」と予測しています。現在、団塊の世代(昭和22年から24年生まれ)が65歳以上となり、年金生活に入っていますが、同社はアクティブなシニア世代が、「健康なうちに自らの意思で住み替えやリフォームを行うことで、地域やコミュニティに新たな縁や居場所をつくる動きが生まれている。彼らは、従来の『健康・安心』に加え、『趣味・学び・役割を通じた交流』を求めており、住まいの変化をきっかけ(縁)として活用している」と分析しています。

高齢者住宅は多様化、住み替え支援策も

昨今、高齢者向け住宅は多様になってきました(表1)。大阪では、高齢者の住み替えに対して支援しています。その一例が高齢者の家探しに協力してくれる不動産店を「協力不動産店」として大阪府宅地建物取引業協会へ登録し、大阪市立住居情報センターで情報提供を行っています。センターでは、緊急通報システムや食事サービス等、大阪市健康福祉局が実施している高齢者への生活支援サービスについての情報も提供していますので、併せて活用するとよいでしょう。

市営住宅の募集についても高齢者世帯に対する別枠募集が、設けられています(表2)。

表1 主な高齢者の住まい

特別養護老人ホーム(特養)	常に介護が必要で、在宅生活が困難な人が、日常生活上の世話、機能訓練、看護などを受けながら生活する。個室・ユニットケアを実施する施設も。
介護老人保健施設(老健)	医学的な管理のもと、看護、機能訓練、日常生活上の世話を受けながら在宅復帰を目指すリハビリ施設。特養に比べ医療ケアが充実。
介護療養型医療施設	病状が安定期にある長期療養患者で、介護と医学的な管理が常時必要な人向けの施設(病院)。平成29年度末に廃止される予定。
認知症高齢者グループホーム	認知症のため介護を必要とする人が少人数で共同生活できる施設。食事、入浴、排泄等の介護や機能訓練が行われる。利用者のペースでゆったり時間を過ごす。
軽費老人ホーム	食事・入浴・相談・援助など日常生活上のサービスを受けながら、自立した生活を送る施設。60歳以上で自立生活が不安で家族の援助を受けるのが困難な人向け。
有料老人ホーム	食事や介護のほか、日常生活に必要なサービスを提供する施設。住宅型有料老人ホームは介護サービスは提供しない。介護付き有料老人ホームには、職員が特定施設サービス計画を作成、介護サービスを提供する包括型(一般型)と、委託した外部の介護サービス事業者を利用する外部サービス利用型の2タイプがある。
サービス付き高齢者向け住宅	居室の広さや設備、バリアフリーなどハード面の条件を備え、安否確認や生活相談サービスなど生活支援サービスの提供が義務づけられている住宅。
高齢者向け優良賃貸住宅	バリアフリー化など高齢者に配慮した住宅。緊急時対応サービスが利用できる。
シルバーハウジング	バリアフリー化など高齢者に配慮した住宅。生活援助員による安否確認や生活相談、緊急時の対応など福祉サービスが適切に受けられるよう配慮されている。

表2 高齢者に関する大阪市営住宅の募集区分

募集区分	条件等
親子近居住宅	親世帯(60歳以上)と子世帯で同一区内で生活を希望する人
高齢者住宅 高齢者特別設計住宅	60歳以上の人が「配偶者・18歳未満の児童・障がい者・60歳以上の方」の親族とのみ同居する世帯
高齢者ケア住宅	単身(60歳以上)。 *自炊可能な程度 の健康状態か居室で常時の介護を受けることで自立した生活ができる人 世帯(60歳以上の夫婦のみ、または60歳以上の2人以上の親族のみで構成する世帯。 *と同様)

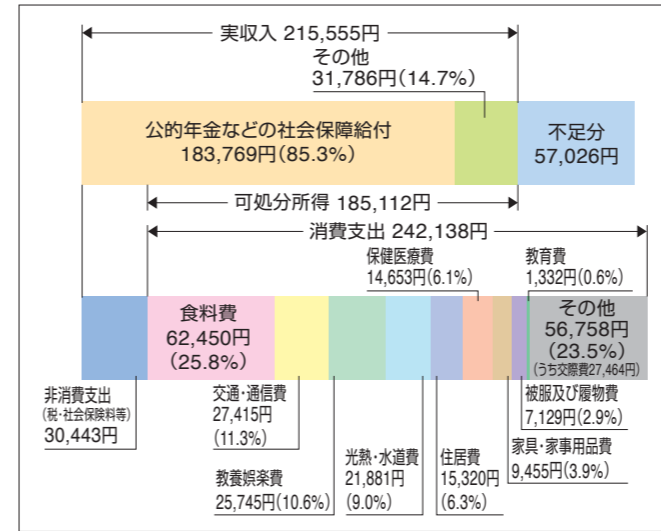
定年後の生活では毎月3万~6万円取り崩す

定年後の生活費をどう捻出するか誰もが悩むところです。公益財団法人生命保険文化センターの調べ(平成24年総務省「家計調査年報」より)によると、世帯主が60歳以上で無職の世帯(世帯員が2人以上)の家計で、実収入(21万5,555円)から非消費支出(税・社会保険料等3万443円)を差し引いた可処分所得は18万5,112円。これに対して、消費支出は24万2,138円、1ヵ月間に約5万7,000円が不足していることがわかりました(図2)。

また、60歳以上で無職の単身世帯の家計では、実収入(12万1,542円)から非消費支出(1万770円)を差し引いた可処分所得が11万772円。これに対して消費支出が14万3,060円なので、1ヵ月に約3万2,000円が不足しています。

つまり60歳以上の暮らしで毎月約3万円から6万円を貯蓄などから取り崩していることとなります。

図2 世帯主が60歳以上の無職世帯(2人以上の世帯)の1カ月の収入と支出(生命保険文化センター調べ)



健康寿命を延ばし生活の質を上げていく

世帯主が高齢者の世帯の消費支出(表3)には、買い物の仕方や暮らし方を工夫して減らせる「食費」や「光熱・水道費」、おつきあいの内容を見直して減らせる「交通・通信費」や「交際費」などの項目がありますが、高齢期のやりくりで注意したいのは「保健医療費」です。

男性の平均寿命は79.55歳ですが、健康寿命は70.42歳。女性の平均寿命86.30歳で、健康寿命は73.62歳。つまり男性は最後の約9年を、女性は約12~13年を、日常生活に制限のある期間として過ごします(図3)。

表3 世帯主が65歳以上世帯の消費支出の内訳と構成比(平成24年総務省「家計調査」より)

募集区分	円	構成比(%)
食費	53,618	25.0
住居費	15,495	7.2
光熱・水道費	19,262	9.0
家具・家事用品費	8,525	4.0
被服及び履物費	6,972	3.3
保健医療費	12,791	6.0
交通・通信費	22,433	10.5
教育費	702	0.3
教養娯楽費	22,274	10.4
諸雑費	18,850	8.8
ごつがい(使途不明)	4,897	2.3
交際費	27,009	12.6
仕送り金	1,439	0.7

平均寿命と健康寿命との差が拡大すれば、医療や介護にかかる額も期間も増え、家計に影響を及ぼしますし、国の財政にも負担がかかります。疾病予防と健康増進、介護予防などによって平均寿命と健康寿命の差を短縮できれば、個人の生活の質の低下を防ぎ、社会負担も軽減できます。

都道府県別で見ると、大阪府の平均寿命は男性40位、女性42位、健康寿命は男性44位、女性45位と、ともに全国で低い都道府県の一つです。一度、健康維持・改善という観点から毎日の暮らしを振り返ってみてはどうでしょう。

健康を維持し、医療支出を低減暮らしやすい住まいの再構築

高齢期への備えとして、まずは保健医療費の支出を抑えるために健康を維持すること、そして生活の基盤となる「住まい」を再構築することが重要です。なるべく元気で若いうちから、将来の住まいと暮らしに関心を持ち、快適に暮らすために必要に応じてリフォームや改修、耐震補強、住み替えなどをしていきます。

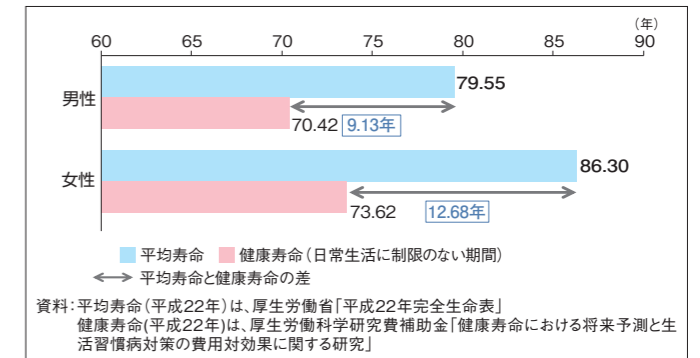
それらが自立して生活するためのいわば「自助」だとすれば、一方で、安心して地域で楽しく暮らせるよう、周囲の人々との交流など「互助」を育む必要もあります。将来的に、医療や看護、介護などソーシャルサービスを受け入れやすい空間づくりや設備を整えておく準備もしていきましょう。

住み慣れた地域でできるだけ長く住み続けたいと思う人は多いもの。高齢者住まい法が改正され、「サービス付き高齢者向け住宅」の登録制度が創設されましたが、まだ課題もあります。社会を挙げて質の高い高齢者住宅を増やし、福祉・医療等の分野でも「地域包括ケアシステム」を構築していくことも急務です。

住環境の質が下がれば空き家や空き地が増え、それに対する住環境の維持管理や整備が追いつかなければ、さらに近辺の資産価値が下がる負のスパイラルにもなりかねません。それを阻止するためにも、街を挙げて住宅や街の価値を低下させない努力が不可欠です。高齢期の住まいや暮らしには、住宅、ケアサービス等にかかわる医療・看護・介護、生活支援、セキュリティなど幅広い領域の事業者が結集し、ノウハウを発揮することが問われます。

大阪市立住居情報センターは10月25日(土)13時30分から3階ホールで「高齢期の住まいと暮らしを考える」タイアップイベントを実施する予定です。一般社団法人コミュニティネットワーク協会、高齢者住宅情報センター、シニアライフSOS、シニアすまいネット、NIS第3の人生、整理収納サービスネットなど多くの事業者が参加し、高齢期の住まいと暮らしを描くいい機会となりますので、ご期待ください。

図3 平均寿命と健康寿命の差(厚生労働省「平成22年完全生命表」より)



くいだおれのまちが育んだ 「コナモンやきやき」文化

大阪が誇る「うまいもん」は数々ありますが、その中でも「たこ焼」と「お好み焼」は、今や、全国に知られる浪花を代表する食べ物でしょう。縁日の屋台やまちかどの店、さらには家でも食べられ、老若男女に愛されています。そんな日常の気軽な「コナモン」はくいだおれのまちの気風とマッチしながら、「おいしい」を求める人々の工夫によって進化してきたようです。

大阪独自の進化をたどった 「たこ焼」「お好み焼」



熊谷 真葉さん

たこ焼も、お好み焼も、おやつやごはん代わりに手軽に食べられています。その独特な歴史はあまり知られていません。日本コナモン協会(平成15年設立)会長の熊谷真葉さんは、大学の卒業論文を契機にたこ焼のルーツを探る調査を始め、10年の研究成果をまとめた著書「たこやき」を平成5年に出版。全国的なたこ焼ブームの火付け役ともなりました。現在はたこ焼、お好み焼、焼そばなど「鉄板コナモン」をはじめ粉食文化振興の先頭に立っています。そんな熊谷さんにお聞きしました。

たこ焼のルーツは諸説あるそうですが、やはり明石焼の影響があったよう。「明石玉というサンゴの模造品を作る型が明石にあったんです。その糊として玉子の白身を使いますが、余った黄身をその型に入れて焼いた。そこに明石でたくさん捕れるタコの胴を刻んで入れたのが「明石焼」(地元では玉子焼)です。大阪では水で溶いた小麦粉に刻んだコンニャクや紅しょうが、エンドウ豆などを入れて焼いた「ちよぼ焼」や、形などたこ焼の前身と言



われる「ラジオ焼」が明治末ごろから屋台や駄菓子屋さんで作られていました。その種にダシを加え、明石焼にヒントを得てタコを入れたたこ焼は昭和初期には生まれていたようです。「くるっと回して焼き、丸い食べ物にしたのも大きいですね」。

一方、お好み焼は「千利休が茶菓として編み出した「麩のやき」が鉄板粉ものルーツと言われています」。水で溶いた小麦粉を薄くのばして焼いたもので、江戸時代になると「文字焼き」や江戸末期には具をのせる「どんどん焼き」に発展、大阪ではメリケン粉が輸入された明治ごろから水溶き粉を薄く伸ばしキャベツなどを載せて焼く「一銭洋食」が広まったとか。「子どものおやつだったべたんこの洋食焼を、大阪の人は粉をダシで溶いて、キャベツとまぜてふんわり焼きあげた。洋食焼も広島やそれぞれの地域で独自に進化しています」。

そうして昭和30年前後以降、お好み焼の店やたこ焼の屋台が増え、まちのそこかしこでコナモンを焼く香ばしい匂いが漂うようになります。

本場の味を生んだのは 大阪人の味覚とダシの文化

大阪で広まり発展した理由については、さまざまな要因があるようです。「明治から大正にかけて大阪は世界有数の工業都市として発展。多くの労働者を相手に屋台や夜店が並び、そこでゆるい生地を一から焼き上げる工程を目の前で見た。それ自体に娯楽の魅力があり、にぎわいとなった。客と店主のやりとりが新しいおいしさを生みだす、くいだおれ文化が象徴的に見られるのが鉄板コナモンの特徴です」。さらに「たこ焼、お好み焼は庶民がいか



に安く手近な食材でおいしくお腹を満たすかを考えたもの。日々の創意工夫が詰まっています、また、ダシの文化が底流にあることが大きい。種にダシを入れたらおいしくなると気づいたのは大阪人ならではの舌でしょう。だから、ダシがベースにあるたこ焼もお好み焼も和食なんです」と熊谷さん。戦後からコナモンに不可欠になるソースのおいしさを競うのも、大阪人の食へのどん欲さでしょう。大阪が本場になったもう一つの大きな理由は「家庭料理として各家で作られていること」もあるとか。

30年余り、コナモンの研究を続け発信している熊谷さん。「たこ焼は『カリッ、トロッ、プリッ』と3つの食感が口に広がる。コナの食べ物はそれぞれ食感が違い、口に入れるまでわからない。食べるたび発見がある。そこが魅力であり楽しみ。好奇心をそそる食べ物なんです」。

日本コナモン協会では作り方の教室など多彩な活動でおいしいコナモンの普及をしています。協会プロデュースで大阪の人気店の店主たちが開発した「道頓堀やきそば」を推進中。もちもちの極太麺にダシをきかせ、道頓堀ソースを使うもので、浪花の新名物として大阪を中心に各店の協力で展開しています。「いろんな店が焼いてくれることで文化として残していきたい」。

「コナモンは変幻自在で何でもあり。お好み焼の名そのままに本当に自由度が高い食べ物」。気取らない自在さも氣質に合い、大阪らしさを象徴する食べ物なのかもしれません。「大阪はコナモンの味覚のレベルが高く保たれています」。たこ焼やお好み焼がまちの人々に愛されている証拠でしょう。



旨いコナモンの普及と発展をガス器具で支え続ける



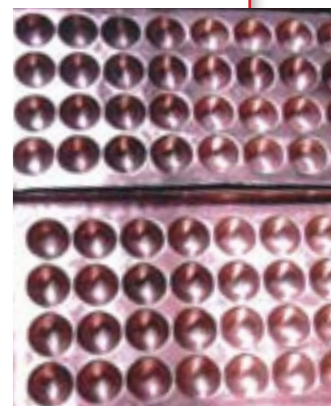
旭進ガス器製作所
吉村 健一さん

「お好み焼は鉄板は薄ければ薄いほど表面に先、火が通ってしまい、中まで火が通りにくい。お好み焼は中に入れる素材がいろいろあるから、分厚い鉄板でじっくり火を通さないといけません。広島焼きなどは最低でも20mmを要求されます」と語るのは、旭進ガス器製作所(生野区)の代表取締役・吉村健一さん。業務用として、お好み焼の鉄板やたこ焼器、イカ焼のプレス器をはじめ、ペビーカステラや鯛やきも含めコナモン調理のガス器具を一手に引き受けています。製作所の中にはそんな器具が所狭しと並び、コナモンと歩んだ歴史も感じさせます。お父さんが昭和の中ごろからガス器具を手がけ、吉村さんは40年程前からお父さんと共に制作に専心。以来、新しいガス器具も次々と開発し「今のコナモンのテーブルは僕が考えたものも多い」とか。たこ焼器は銅製なら手打ちで丸みを均一にし、穴の数や大きさも要望に応じて作っているそうです。



最近穴の数が少なく大きめなのも流行とか。

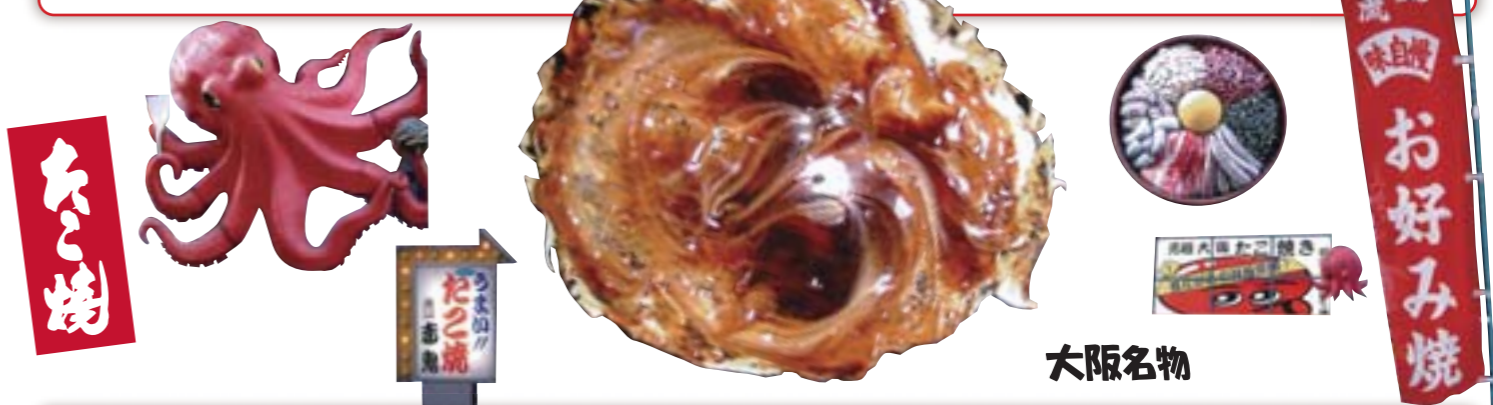
ガス器具が庶民に普及したのは昭和30年代。「戦前や昭和20年代、ガス器具は庶民には手が届くものではなかった。昔のちよぼ焼やラジオ焼はからけしや炭を利用してへっついさんやかんてきで作っていたはず。戦後、屋台にプロパンガスが入ってきて、お好み焼やたこ焼を目の前で作って繁盛した、そこから商人が乗り出します」。やがて、都市ガスの普及でまち角や路地に店ができ、しだいに各家庭でも作られるようになっていきます。専用のガス器具も大きな役割を果たしました。長年、機器を作る側として支えてきて「たこ焼とお好み焼は大阪に根を張り、誇れる食文化になっています。さらに留まらず挑戦する意欲も持っている。そんな提供する側と食べる側のマッチングが大阪はレベルが高い」とにっこり。「関わった店にはやってほしいから」と数々の店にも食べに行き、生き字引的見聞の広さでコナモンの縁の下の力持ちであり続ける吉村さんです。



銅製のたこ焼器は手打ちの手作り



コナモンの一つ、ペビーカステラのパンダ型は特製



大阪名物

手作り一筋、なにわ老舗のソースの味に心をこめて



星トンボ食産工業所
佐藤 品江さん

もその一つ。半世紀以上前から業務用として製造されてきましたが、おいしさが注目されて一般から要望が多く、近年、家庭用も販売。「大阪産名品」のお墨付きももらいました。

ソース作りは昭和26年から。ソースの仲売りをしていた佐藤光明さんが東成区大今里の自宅で作りに出したもの。佐藤品江さんは光明さんの息子さんと結婚し、義父のソース作りの片腕として試食係を担ったとか。「舅は自分が満足できるおいしいソースを作ろうと試行錯誤の連続で、私は毎日毎日味見して遠慮しながらも

意見を行いました」。歳月はかかったそうですが、完成したソースは「甘すぎず辛すぎず、ええ甘味とええ酸味とスパイスの味のバランスがちょうどいい」と、味にうるさい大阪人も太鼓判を押す独特の旨味が自慢です。チャーミングな「星トンボ」の名も考案した品江さん。息子さんの英樹さんと共に、今も手作りを続け「季節や天候に合わせて調合や加熱温度も変えて、でき上がるたびに味見して納得してから瓶詰めをしています」。しんどい作業を支えるのは「これがなかったら商売ができない」と惚れ込んでくれる老舗店主たちの声。「信頼にこたえないと。この味を守り続けて頑張ります」。香ばしささわやかな後味にも定評があり、大阪のおふくろの絶妙の味加減を感じさせる、まさに浪花のソースです。



「星トンボソース」は2種類のみ。「とんかつソース」はお好み焼やたこ焼に、「ウスターソース」は焼そばや串カツにびったり。家庭用サイズ(500ml)はネットやスーパーなどで販売。

4回連載

「シニアライフを予習する」

第1回 元気なうちに何をしておく？

- 4回連載「シニアライフを予習する」
第1回「元気なうちに何をしておく？」
- 1 快適エイジングを目指して
 - 2 住空間を快適に
 - 3 自分の人生を振り返って書き出す
 - 4 地域に軸足を置き、積極的な社会参加を
 - 5 計画的な健康維持を
 - 6 家族関係の再構築も



いまや平均寿命は男性79・55歳、女性は86・30歳ですが、自立して生活できる“健康寿命”との差は9年から13年ほどあります(平成22年調査より)。高齢期に向けては、健康維持や資金計画、相続や贈与など財産管理、死亡時の前後に必要な契約など準備することも多いもの。シニアライフを少しでも早く「予習して」おけば、高齢期をよりその人らしく「編集」できるのではないのでしょうか。第1回は元気なうちに何をしておくか考えてみます。(協力:NPO法人生きがい大阪 三津井博昭副理事長)

● 快適エイジングをめざして

定年退職の時期は、かつての55歳から60歳、そして65歳へと延びています。定年後にも長い時間があるわけですから、現役時代の最後、55歳から65歳の間を定年後の人生設計の準備期間としてはどうでしょう。親世代も長生きしていますから、親の介護で疲弊しないために、介護の知識や介護保険で何ができるかなど、あらかじめ学んでおきます。

「最後まで自分の人生を気持ちよく生きるためのデザインが大切。自分の可能性を最大限に生かし、賢く活潑に成長し続ける“快適エイジング”をめざしたいですね」と話すのは、NPO法人生きがい大阪の副理事長、三津井博昭さん。

このNPO法人は、(一財)健康・生きがい開発財団が認定する健康生きがいづくりアドバイザーが中心となって、大阪府下で中高年齢者の生きがいづくりを支援しています。具体的には、快適なエイジングデザイン(高齢化設計)のための「マイノート書き方講座」や「介護を学ぶ講座」、介護予防運動講座の実施、ニュースポーツ「ディスコン」による仲間づくりなどを進めています。

● 住空間を快適に

高齢になり体の機能が衰えても快適に過ごせるよう、元気なうちに住空間を見直していきましょう。現役時代より便利でコンパクトな住まいに住み替えたり、浴室やトイレに手すりをつけたり、住空間をなるべくバリアフリーにしたりして、体への負担を軽くしていきます。

住まい情報センターでも随時、老後の住まいやリフォームなどについてセミナーや相談会を実施していますので、利用してください。

● 自分の人生を振り返って書き出す

「家族でも、看護や介護のスタッフなどの他人でも、“自分をわかってきている人”がいるということが快適エイジングの基本」と三津井さんは話します。そこで役立つのが「マイノート」。自分のことをよく知ってもらうために書く履歴書のようなものです(表1)。自分がどんな人間か、どんな趣味をもっているか、看護や介護の際にど

表1 マイノートの章立て

① 私の生い立ち	⑦ 一日の主な生活の流れ	⑬ 財産
② 私のこと	⑧ 大切な人へのメッセージ	⑭ 遺言や相続
③ 家族親族のこと	⑨ 介護が必用になった時	⑮ ペット
④ 家系図	⑩ 介護度が進んだ時	⑯ 葬儀
⑤ 交友関係	⑪ 身じまい	⑰ 墓
⑥ 人生で心に残っていること	⑫ 献体	

うしてほしいかなどをあらかじめ書いておきます。

終末期の延命治療や亡くなった後の葬儀、財産分与などを記す「エンディングノート」は、信頼できる家族が読みますが、マイノートは家族以外の他人も読むことを想定して書きますので、お金や実印のありかなど知られて困ることは書きません。

● 地域に軸足を置き、積極的な社会参加を

何もすることがないと引きこもりがちになりますが、若い時のように遠方まで飛び回るのは少々難しくなります。だからこそ住んでいる地域に根ざした活動や居場所が必要です。コミュニケーションの量が減ると、心身の健康維持に支障をきたすことも。なるべく積極的に友人やサークルの輪に入り、社会参加するようにしましょう。

自分だけよければいいという「一人称」の生き方から、たくさんの人に喜んでもらう、認めてもらうことで張り合いを得る「三人称」の生き方へ…。平均寿命と健康寿命の差を縮める工夫をしていきます。

● 計画的な健康維持を

これまでは、心臓や脳血管など内臓の病気によって、健康寿命が短くなったり要介護状態になるリスクからメタボ(メタボリックシンドローム)が注意喚起されてきました。(公社)日本整形外科学会が新たに提唱したロコモ(ロコモティブシンドローム:運動器症候群)もまた、健康寿命の短縮や寝たきり・要介護状態の要因のひとつとされています。生活習慣病にならないよう体質管理をだけでなく、運動習慣を取り入れ、積極的に筋肉をつけ、腰痛や膝痛の疾患対策をし、運動器を維持するための食生活を強化することで、健康寿命を伸ばしていこうという考え方です。健康維持や筋力アップのために、健康運動指導の機会も活用していきましょう。

● 家族関係の再構築も

現役世代からリタイア世代へ、老齢期へと移るにつれ、家族のあり方や周囲の人間関係も微妙に変わってきています。「子どもに迷惑をかけたくない」と思う一方で、「誰にどんな介護をされるのか不安だ」と気持ちが交錯します。「子どもに何をしてほしいのか本心を書いてみては。子どもがそれはできないと言っても驚かず、妥協点を探ればいい」と三津井さん。

70歳を過ぎれば、体方面、精神面ともに「下り坂」に入ります。下り坂だからこそ、どうしたらQOL(クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)が上げられるか、住まい、暮らし、健康、運動、人間関係、さまざまな点から考えていきましょう。

大阪 くらしの 今昔館

news

volume.52

平成26年7月

幕末の開国から昭和初期に掛けて日本は激動の100年を歩み、奇跡的な飛躍を遂げました。それまでの鎖国という長い「泰平の眠り」から覚めるや否や、怒涛の如く流れ込んできた西洋文化と日本の伝統文化とが、時には反発しながら、時には融合しながら、独特の折衷文化を築いてきました。その時代の活気あふれる文化の変遷、時代の雰囲気は、当時の商品パッケージやラベル等の意匠類、ポスターや引札等の広告類に色濃く残されています。そこに施された素晴らしい図案、グラフィックデザインは、絵画や工芸品のように、後世に残すために創作されたものではなく、当時の人々にリアルタイムに訴えて、商品自体を瞬間的に輝かせることが目的であったはずで、それだからこそ、時代の活力が凝縮さ



多木肥料のオール・ヌーボー調ポスター(大正頃)



明治から昭和初期に掛けての化粧品パッケージ

れています。まさに「浪漫図案」といえるでしょう。

浪漫図案の時代のデザイン様式は多岐に渡ります。大きな流れとしては、日本の浮世絵から西洋のビクトリア朝文様、アール・ヌーボー、アール・デコ、そして機能主義的なモダン・デザインへと至ります。

例えば化粧品のパッケージデザインで見ると、日本古来の白粉のデザインは浮世絵の流れを汲むものが明治時代は主流でした。明治後期になると、化粧も近代化し、化粧水やクリームといった基礎化粧品が国産化されますが、そこには当時、ヨーロ

パで流行っていたアール・ヌーボーデザインが採用されました。元来、日本の浮世絵の影響を強く受けているこの様式は、国内でもこれを受け入れる土壌があったようで、女性向けの華やかなパッケージデザインによくマッチしました。中山太陽堂のクラブ化粧品に描かれた双美人や桃谷順天館の美顔水のエレガントなデザインは傑作です。また、ポスターとアール・ヌーボー様式との親和性は高く、ビールや肥料の広告でも応用されました(挿絵写真のポスターは植物的な曲線の縁取りが特徴的です。日本髪にバラというのもいかにも和洋折衷的です)。

西洋デザインのアール・ヌーボーに続く流れは、直線的、幾何

学的図形を多用したアール・デコです。日本でも大正中期よりこの流れを受け、日本的な感性が溶け合った和製アール・デコが登場しました。これも化粧品のパッケージデザインへいち早く取り入れられました。単純で抽象的、かつすっきりとしたデザインで、色使いが原色に近く、鮮やかなことも特長です。このように化粧品のパッケージデザインは西洋の影響を強く受けながらも、日本的要素をうまく取り入れて発展してきました。

化粧品以外にも、商品分野別に見ると、横浜・神戸の外国人居留地で流通したラベルの大胆な構図、輸出用生糸ラベルにつけられた精緻なデザイン、ユーモラスでバラエティに富むマッチのラベル、浮世絵手法の流れを汲む薬の広告類、舶来品の模倣から始まったビールや紙巻煙草のパッケージ、ビクトリア朝風の装飾で彩られた反物やお菓子のラベル等、魅力あふれる品々の夢の足跡がそこにあります。

7月19日から大阪くらしの今昔館で開催される「浪漫図案」展では、私が20年に渡り蒐集したパッケージ、ラベル、ポスター、看板などを一堂に展示し、時代の雰囲気を再現します(大阪の老舗化粧品会社や関西のヘビーなコレクターの協力も得ています)。そこでは、懐かしさや温かさ、そして我が世の春的な心地よさを感じ取っていただけるでしょう。まるで、前世にそれらのデザインに日常的に囲まれていたかの幻想を抱きながら、得体の知れない甘美なパワーに陶酔してしまいます。(佐野 宏明)

新発見「よと川の図」を楽しむ

大阪くらしの今昔館蔵、紙本着色 折本 39.0cm×882.01cm

大阪くらしの今昔館が所蔵する「よと川の図」は大坂中之島から伏見までの淀川風景を描いた絵画で、第2回HOPE展「天満の歴史とまちづくり」展(2014年3月8日～4月6日)で初めて公開されました。本図に描かれた江戸時代の淀川をさかのぼり、沿岸の名所や宿場町の風景を見てみましょう。



図1 中之島の蔵屋敷

琵琶湖から京都南部を通り大阪湾へ流れ込む淀川は、江戸時代には京・大阪を結ぶ幹線ルートであった。西廻り航路で着いた荷物や人、参勤交代の西国大名や朝鮮通信使は、大坂から淀川を遡上し、京あるいは東海道人に入るのが一般的であった。

長い旅の途中、穏やかな淀川を上る船から見る風景はひとときの慰めにもなったであろう。淀川沿岸を連続的に描いた図は、大岡春卜「浪花及淀川沿岸名勝図巻」(1745)、円山応挙「淀川兩岸図巻」(1765)、伊藤若冲「乗興舟」(1767)など18世紀以降しばしば見ることができる。また「大川便覧 上陸必携」(1843)のように携行に便利な折本の刷り物、松川半山「淀川兩岸一覽」(1861)のように名所を詳しく紹介した錦絵の冊子も作られた。今回紹介する「よと川の図」は、これらの淀川沿岸図と比較しても古い景観を描くものとして注目される。

蔵屋敷と八百八橋

折本の表紙を開くと蔵屋敷の建ち並ぶ中之島風景である(図1)。蔵屋敷は各藩の年貢米や産物を販売するための施設で、蔵・役所・邸宅を兼ね備えていた。天保年間の大坂には124もの蔵屋敷がおかれ、まさに「天下の台所」を象徴する風景であった。

巻頭にはひととき大きな蔵屋敷が描かれている。屋敷前の橋には「肥後橋」と記されるが、位置からみて筑前橋の間違いであろう。黒餅紋の御座船が繫留されていることから、描かれているのは筑前・福岡藩(黒田家)の蔵屋敷と思われる。福岡藩の米は、相場の基準を決める大坂四蔵のひとつともされた代表的な米蔵であった。本図の蔵屋敷には屋敷、番所、米蔵が並び、大勢の人が立ち働いている。このように蔵屋敷の内部を詳しく描いた図は大変珍しく貴重である。ちなみに福岡藩蔵屋敷の長屋門は天王寺公園に移築され、大阪府有形文化財に指定されている。

折本は大坂市中を遠望する図が続く。その金泥の、すやり霞の中に東横堀と本町橋、思案橋、さらに「西御

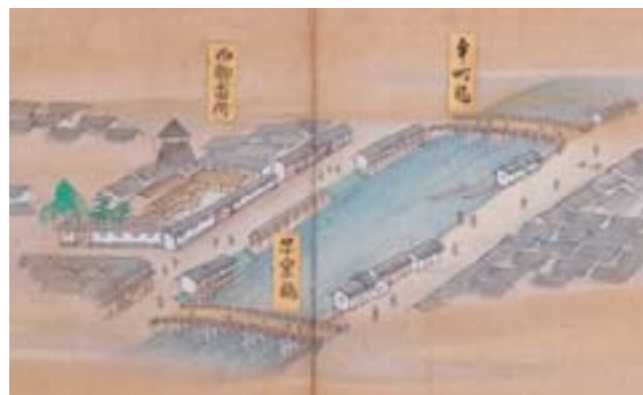


図2 東横堀と西町奉行所

番所」と貼札のある西町奉行所が見える。東横堀の界限は、油問屋・木綿問屋・呉服・古着屋が軒を連ね、大坂で最も賑わう地域であった。享保9年(1724)に市中の3分の2を焼き尽くした大火(妙智焼)があり、城のそばに隣接してあった東・西町奉行所が2つとも焼失してしまう。この苦い経験から大火後、西町奉行所は本町橋の北東側に移して再建された。本図は西町奉行所の位置から、1724年以降の景観であることが分かる。大坂の町を睥睨するかのよう、巨大な火見櫓がそびえている。



図3 八軒家と大坂城

図3の右から天神橋、天満橋、京橋である。いずれも幕府が架設・修復を行った公儀橋であった。江戸時代の天神橋は長さ137間4尺(約250m)という長大なものであった。公儀橋は擬宝珠があるのが本来の姿であったが、江戸後期には京橋のみが本物の擬宝珠をつけていた(撰陽奇観)。図3でも唯一、京橋に擬宝珠が描かれているのが分かる。

天神橋と天満橋の間には八軒家浜が描かれている。京・伏見への船の発着点で、雁木(階段状の船着場)や旅籠が並んでいる。赤い前垂れの客引き女が、客の袖を強引に引っ張るさまも見え、港の賑わいが生き生きと描写されている。

八軒家の上には釣鐘屋敷の櫓、その左には大塩平八郎が勤務した「東御番所」(東町奉行所)、さらに大坂城が描かれている。大坂城の天守は寛文5年(1665)に落雷で焼失したため、天守台のみの姿である。左側に3層の伏見櫓も見える。

淀川沿岸の風景

■ 桜宮、御座船、柴島の晒

たびたび氾濫した淀川の左岸(西側)に文禄堤を築いたのは豊臣秀吉である。この堤の上に京街道が開かれ、江戸時代には東海道の延長とされ、行き交う旅人で賑わった。

八軒家浜を出た船は、左手に天満宮、川崎の幕府の御用蔵、右手に網島、桜宮を見て進む。桜宮は桜が満開で、花見の宴が繰り広げられている。

桜宮を過ぎるといよいよ淀川の本流に入る。追風に帆を膨らませた御座船は、供船を従えて進んでいく。両岸には農村ののどかな風景が広がり、左手には「国嶋さらし堤」も見える。良質で知られた柴島晒は、白木綿を淀川の水で晒して堤の芝に広げ、天日で乾かした。そのさまが「恰も雪のごとし」「其風景絶勝なり」(淀川兩岸一覽)と賞され名物であった。



図4 柴島晒と御座船



図5 曳船

淀川を航行する船は二十石あるいは三十石船が主流で荷客兼用であった。三十石船は全長約17m、船頭2人を入れて約30人乗りである。下り船は半日で大坂に着いたが、流れに逆らう上り船は人足が船を曳いたので1日かかった。

■ 枚方宿、くらわんか舟、大名行列

枚方は京街道のちょうど中間点にあたり、幕末には69軒の旅籠が薨を並べた。右上図の宿場の中央に「御本陣」の貼札が見える。京街道を徒歩で行く大名行列も見える。じつは上り船は徒歩と時間がかからず、下り船の倍の料金であったので、上りは徒歩で行くことが多かった。

枚方あたりには「くらわんか舟」が出没した。これは淀川を往来する三十石舟の客に飯や汁や酒を売る茶舟の俗称で、夜でも無作法に客を起こし「食らわんか!」と乱暴に声をかけるさまが淀川の名物であった。



図6 大名行列と枚方宿

■ 淀城、伏見



図7 淀小橋と淀城

船旅の終盤に木津川・桂川・宇治川が合流する淀にさしかかる。この三川合流の中州を利用して築かれたのが淀城であった。寛永2年(1625)、徳川秀忠の命で新城が築かれ、二条城の天守が移された。その後城主はたびたび替り、享保8年(1723)以降は稲葉氏10万2000石の居城となった。城には直径9間(約16m)の水車があり、「淀の川瀬の水車誰を待つやらくると」と唄われた。

船旅の終着点は瓦屋根の町並みが続く伏見の町である。三十石船で着いた旅人は、京橋から伏見街道を歩いて京に入った。橋のたもとは、舟から下ろされた俵が積み上げられ、多くの人馬が行き交っている。伏見は江戸中期には人口3万人を数え、本陣4軒、脇本陣2軒、船宿や旅籠39軒を擁したといふ繁栄を極めた。

「よと川の図」は建物や河川の位置関係が

図8 伏見のにぎわい

正確で、実際に船から風景を特定するために用いられたと考えられる。また蔵屋敷や町の賑わい、川漁などが細かく描かれ見飽きることがない。巻頭に黒田藩蔵屋敷が大きく描かれていることから、黒田藩あるいは藩出入りの商人が制作に関与した可能性も想定できる。景観や制作年代の詳細な分析については、改めて紹介する予定である。

(摂南大学外国語学部教授 岩間 香)
(大阪くらしの今昔館館長 谷 直樹)

あんじゅ Message Board メッセージボード

このページでは、「あんじゅ」や「住まい情報センター」に対するご意見や応援メッセージ、センターの活動やお知らせなど、さまざまな情報をお届けします。「あんじゅ」「住まい情報センター」へのご意見・ご要望、今後とりあげてほしいテーマ、開催してほしいイベントなどを、どしどしお寄せください。

4F 住まい情報センターからのご案内

平成26年度 出前講座“12”プログラムをはじめました!

みなさんがお住まいの町へ出かけて講座を開催します! **申込・参加費無料! 受付先着順**です。
お申し込みはお早めに!
1講座の所要時間は1時間半から2時間程度です。参加者10名以上で出前講座をお申し込みいただけます。
■お申し込みはこちら▶ <http://www.sumai-machi-net.com/demae-info>
大阪市立住まい情報センター出前講座担当 TEL 06-6242-1160



プログラム一覧

1	インテリア講座
2	住まいのお手入れはまちの景観に貢献!!
3	長期優良住宅化リフォームで快適な住まい
4	木の家を建ててみよう
5	木の家のお手入れ方法
6	国産材を使った家づくりは環境を守る
7	地震に強い住まいづくり
8	高齢期の住み替え準備講座
9	有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅の違いと現状
10	高齢者住宅の現状と種類や選び方
11	安全に暮らすための整理収納
12	シンプルライフのススメ



※回数限定講座もあります。



インテリア講座の様子



インテリア講座の作品

4F 住まいのライブラリーからのお知らせ

平成26年度 ライブラリーボランティアに新しいメンバーが加わりパワーアップしています!

ボランティアおすすめ本の紹介や書評などライブラリーは日々変化しています!! 「銀二貫」、「ごちそうさん」本など、大阪関連本多数所蔵しております。ご利用お待ちしております。

■新着図書の検索は、あんじゅネットをご利用ください。
ホームページ <http://library.sumai.city.osaka.jp/opac/wopc/pc/pages/TopPage.jsp>



ボランティアメンバー

住まいのQ&A

Q 夏を涼しく過ごすためには?

A 窓の外で遮熱と冷却を



梅雨が明けると真夏の到来。過酷な季節に家の中を涼しくするには、窓の外で日差しを遮り、外の暑さを部屋の中に入れない工夫が必要です。バルコニーや庭など窓の前に日陰ができるよう、よしやすだれを掛けます。遮光だけでなく冷却という点でさらに役立つのがグリーンカーテン。葉が大きく、成長の早いゴーヤやヘチマなどを使うと効果的に日射を遮ります。植物の蒸散が気化熱を奪ううえ、植物も外気温より低い状態に保たれているため、周囲の気温上昇を抑えられます。緑のカーテンを広くつくりたいなら、ネットを

張って枝を横方向に誘い出します。ただし、水やりや施肥などの手間もかかります。

ホームセンターなどで手に入る遮熱するUVカットのスクリーンやフィルム、遮熱効果のある網戸などを取り入れるのも有効です。開口部を開ける時は、風上と風下をともに開け、室内に空気の流れをつくります。打ち水は朝晩の涼しい時に行います。日の高いうちに水を撒くと、巻いた水が日射で熱せられて逆効果に。雨水などをためておいて使うと節水できます。

節電のためにエアコンを我慢しすぎるのも、エアコンを使いすぎて汗をかきにくい体になるのも、ともに健康の点から問題です。エアコンの設定温度を低くしすぎず、運動や入浴で健康的な汗をかき、体温を下げると言われる夏野菜を上手にメニューに取り入れ、体の内外から涼しく過ごす工夫をしましょう。

(次回は「低炭素住宅」って何ですか?)

大阪市からのお知らせ

「第28回 大阪市ハウジングデザイン賞」の推せんを募集します!

大阪市では魅力ある良質な集合住宅(共同住宅・長屋・戸建住宅の集合)を表彰する「大阪市ハウジングデザイン賞」を毎年実施しています。対象となる集合住宅は、5年以内に建築または改造されたものや、完成後20年以上経過している維持管理が良好なものです。今年度は6月1日(日)から7月15日(火)まで推せんを募集しています。推せんをいただいた方の中から抽選で50名様にレインボーカード(500円分)をプレゼントいたします。たくさんの推せんをお待ちしています。

推せん方法:各区役所、大阪市サービスカウンター(梅田・難波・天王寺)、住まい情報センター4階住まい情報プラザ、市役所1階市民情報プラザ等に推せんはがき付きリーフレットを備え付けますので、必要事項をご記入いただき、郵送してください。また、ホームページからも応募できます。 <http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000260993.html>

■過去の受賞住宅はこちらのホームページをご覧ください。 <http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000038276.html> | お問い合わせ先 | 大阪市都市整備局 企画部住宅政策課 民間住宅助成グループ TEL: 06-6208-9228 FAX: 06-6202-7064 (平日9:00~17:30)



市内3カ所にある大阪市サービスカウンターで広報誌「あんじゅ」をはじめ、住宅関連パンフレットの配布等を行っています。

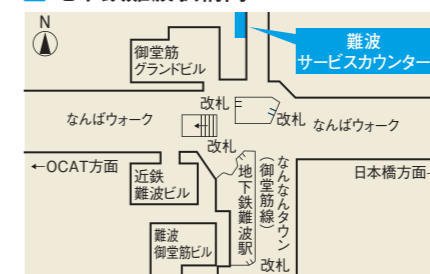
サービスカウンターの営業時間: 平日/9時~19時 土・日・祝日/10時~19時 ※臨時休業する場合があります。

■ディアモール大阪B1F



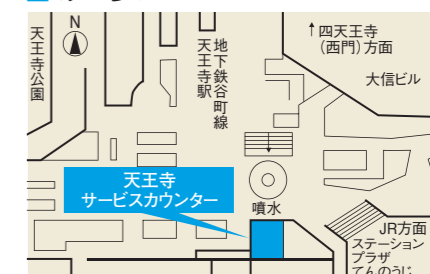
TEL: 06-6345-1103 FAX: 06-6345-0873

■地下鉄難波駅構内B1F



TEL: 06-6211-0874 FAX: 06-6211-0869

■あべちかB1F



TEL: 06-6773-0874 FAX: 06-6773-6600